

24歳以下妊婦1割喫煙

パートナーも6割以上

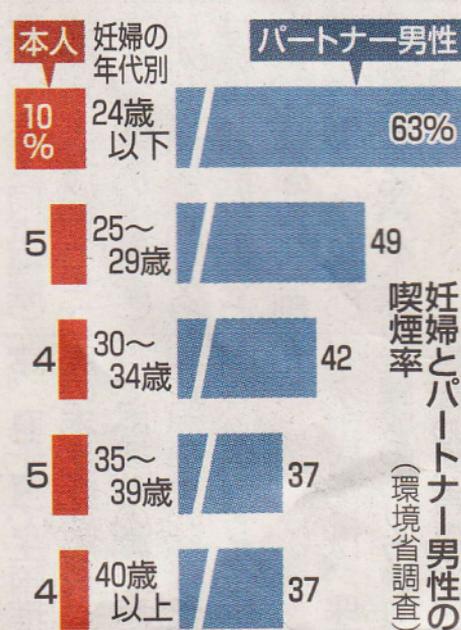
環境省調査

24歳以下の妊婦は10人に1人が妊娠判明後もたばこを吸い続け、この年代の妊婦のパートナー男性も6割以上が喫煙していることが3日までに、環境省の大規模調査で分かった。若い妊婦の喫煙率が高い傾向がみられた。妊娠中の喫煙は赤

ちゃんが低体重で生まれるなどのリスクがある」とされ、他人のたばこの煙を吸う受動喫煙でも悪影響が懸念される。調査に関わった山梨大の山県然太郎教授(予防医学)は「出産後も子どもが受動喫煙で健康を害する恐れが

ある。妊娠したら本人も周囲も、たばこを控えることが必要だ」と話している。調査は、環境省が子どもの病気や健康に環境が与える影響を妊娠段階から調べるため、2011年から始めた「エコチル調査」の一環として実施した。

妊娠初期の妊婦約3万3千人とパートナー男性が回答。環境省によると、出産を控えたカップルの喫煙率に関する大規模調査は初めて。「現在も吸っている」と答えたのは全体の5%、パートナーは45%。妊婦の年代別に分析す



ると、24歳以下は本人が10%、パートナーは63%と目立って高かった。40歳以上では本人4%、パートナーは37%で、年齢が上がると喫煙者の割合は減少する傾向がみられた。一方、その後妊娠した。中期から後期となった妊婦に対し、飲酒習慣について聞いたところ、回答した約2万7千人の妊婦のうち、酒を飲んでいる人は全体の4%だった。年代別で大きな差はなかった。

妊婦とパートナー男性の喫煙率 (環境省調査)